

# 令和6年度後期学校評価アンケート分析

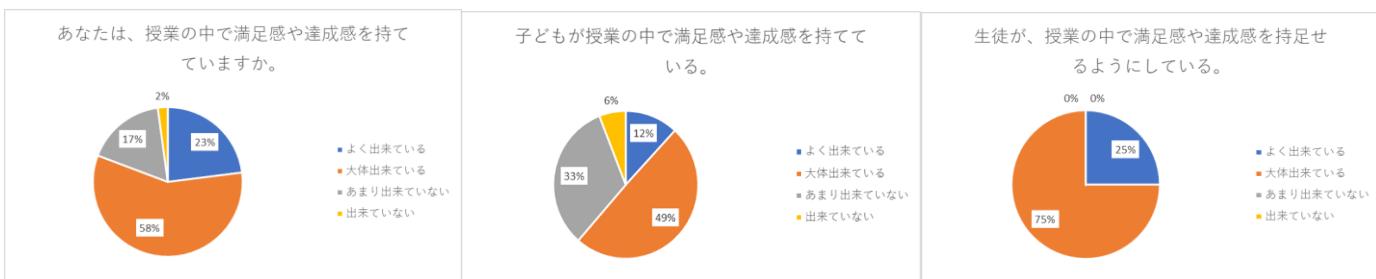
## (1) 「確かな学力」の育成に向けて

平素の授業における発表や学校行事での様子から、話す、聞く態度は各学年とも成長が見られる。また、授業で満足感や達成感を持っている生徒は約81%と前期よりさらに1ポイント上昇した。さらに生徒は「先生は、学習の効果を上げるために努力をしていますか」という質問に対して、前回は87%の肯定的な意見から、90%へと増加している。しかし、保護者の評価は前回よりも4ポイント下降している。ただしできていないという評価は10%から6%に減少しておりあまりできていないという評価が25%から33%へと増加している。

生徒

保護者

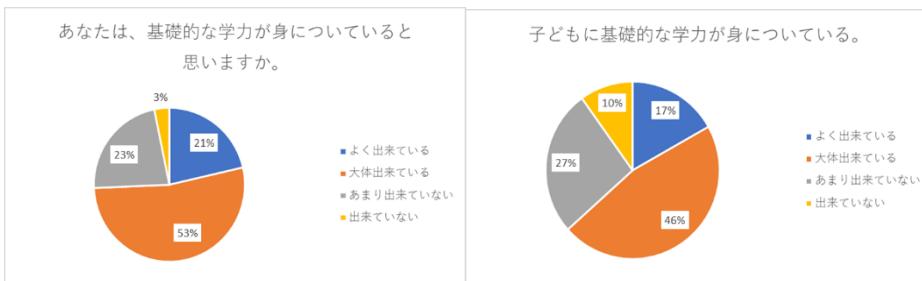
教職員



こうした生徒の高評価に対して、「基礎学力が身についている」ことについては、肯定的意見が74%であり、前回より3%増加している。保護者の評価は肯定的意見が1%減少している。

生徒

保護者



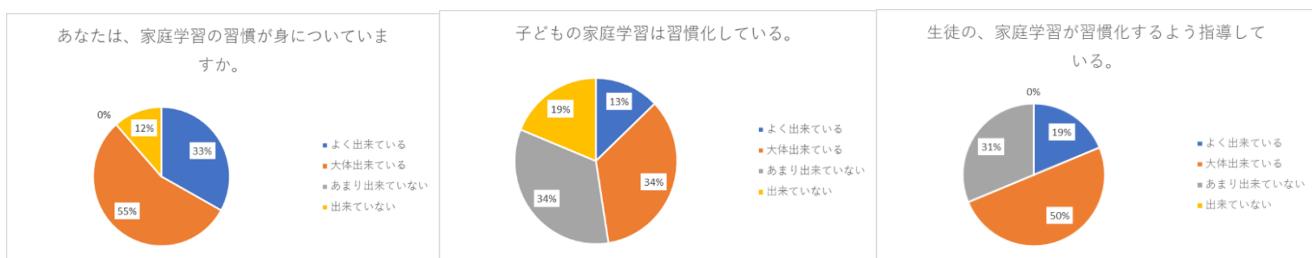
前期アンケート以降も課題として授業改善に関しては、前期よりも後期のほうが学習内容が難しくなっていく中、このレベルを維持できたことは、若干の成果が出たかと思う。しかしながら、生徒と保護者の意識の違いが何に起因するものであるかをこれから検討していく必要がある。

また、家庭学習については保護者の意識は生徒の前回同様に乖離しているが、生徒の「よく出来ている」の評価が前期18%から後期33%へと増加しており、全体の肯定的評価も1%の増加があった。保護者の肯定的評価も1%の増加でした。教職員と生徒との評価は少し近い関係にあることから、宿題=家庭学習として評価していることがうかがえる。自発的な家庭学習をどのような形で習慣づけることが課題となるようである。このことから、家庭と連携をしてより良い家庭学習の習慣化を図っていきたい。

生徒

保護者

教職員

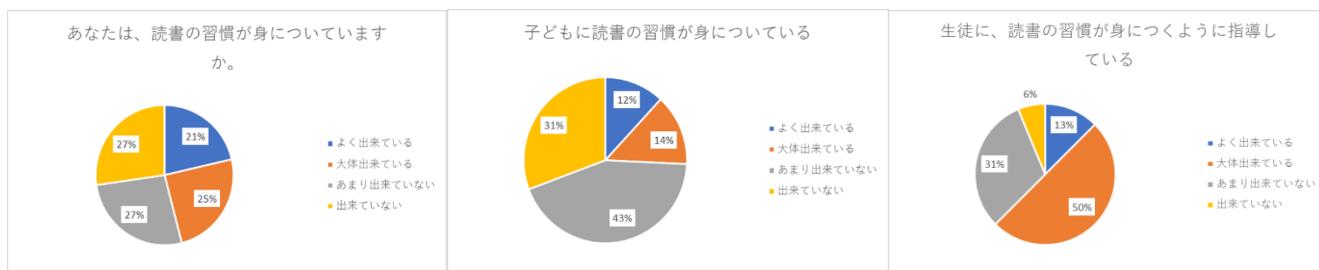


読書の習慣は生徒の評価は前回と同じ肯定的評価は 46%であり低い状況が続いている。それに対して保護者は前期が 35%だったのに対して、後期は 26%と 9%も減少している。

生徒

保護者

教職員



## (2) 「豊かな心」の育成に向けて

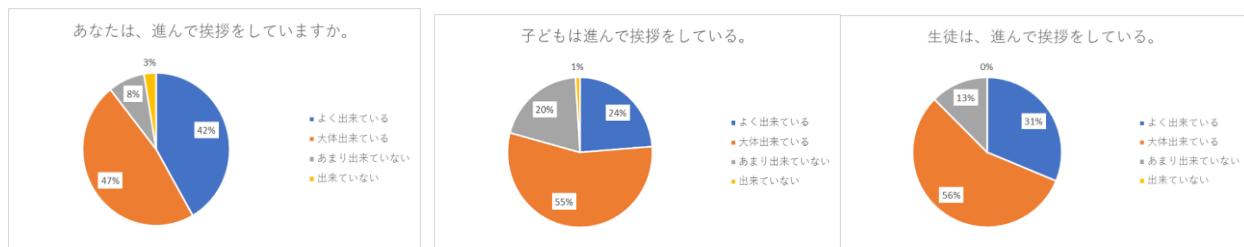
「進んで挨拶をしている」については、生徒の肯定的回答は前回より 2%と増加である。しかし、保護者の評価が 84%から 79%に下がっていることから、家庭や地域でも挨拶をしていくように指導していきたい。

教員の評価としては挨拶ができているが増えていることから、校内での挨拶はよくなっているようである。

生徒

保護者

教職員

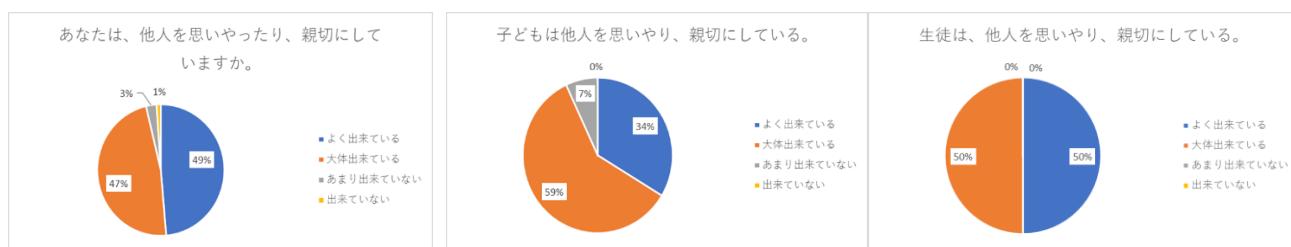


「他人を思いやり、親切にしている」については、生徒の肯定的回答は前期より 1%増加し 96%と高く、本校の道徳教育や人権教育の成果が見られる。保護者の評価は同じでした。教員の評価として「よく出来ている」が増えていた。

生徒

保護者

教職員

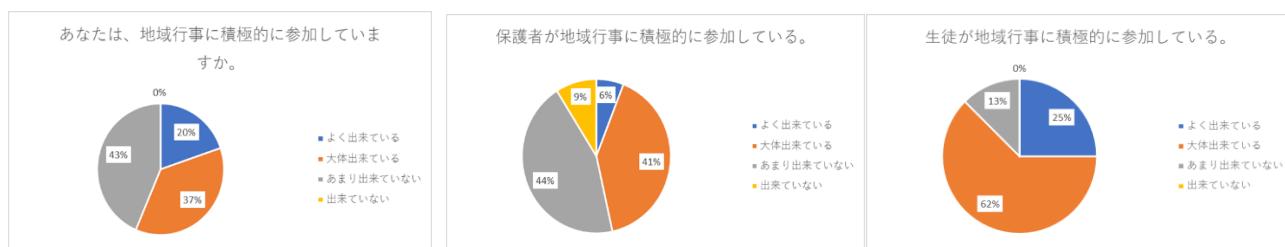


「地域行事に参加している」は生徒・保護者は前期と比べて肯定的評価は 1%と增加了。

生徒

保護者

教職員



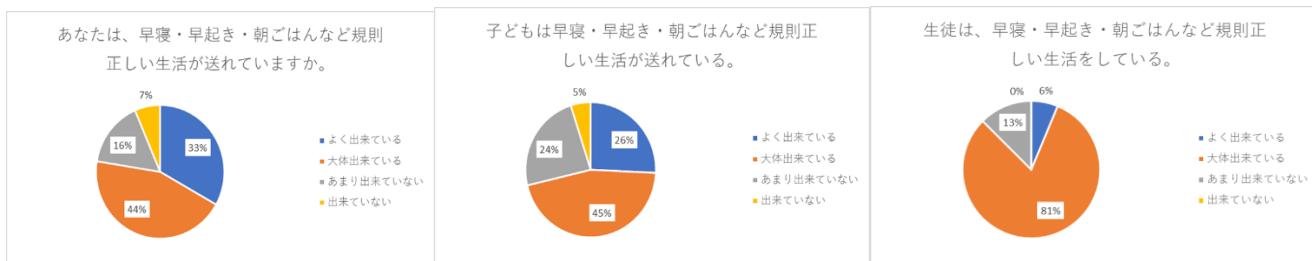
### (3) 「健やかな体」の育成に向けて

「早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活が送られている」では、生徒の回答は前回と比べて2%増加した。また、保護者は6%増加している。教職員も14%増加している。今後も家庭と連携して、規則正しい生活が送れるようにしていきたい。

生徒

保護者

教職員



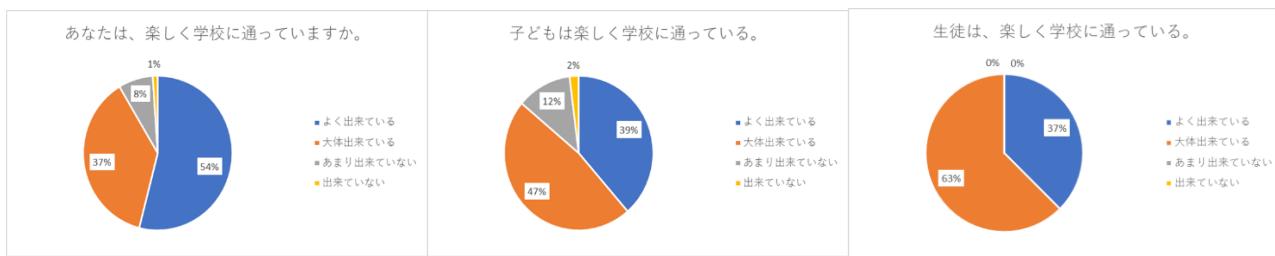
### (4) いじめの防止等についての取組に向けて

生徒の否定的意見が2%増加している。保護者においては3%の増加がある。いじめアンケートを見る限りでは、いじめが起因となっている情報はないが、その可能性も視野に入れて、より一層子どもたちを注意深く見ていく必要がある。

生徒

保護者

教職員



また、「先生に気軽に質問・相談しやすい。」という項目について生徒の肯定的な回答が前期より3%減少、保護者は2%減少している点が課題である。また、教職員は前期以上に相談できる体制を作っていると感じているが、生徒・保護者がそう感じていないことが大きな課題である。これからも100%を目指せるよう取り組んでいきたい。

生徒

保護者

教職員

